

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7398776号
(P7398776)

(45)発行日 令和5年12月15日(2023.12.15)

(24)登録日 令和5年12月7日(2023.12.7)

(51)国際特許分類

F I

B 2 5 H 3/02 (2006.01)

B 2 5 H 3/02

請求項の数 3 (全7頁)

(21)出願番号	特願2019-142343(P2019-142343)	(73)特許権者	390024132
(22)出願日	令和1年8月1日(2019.8.1)		オルファ株式会社
(65)公開番号	特開2021-24013(P2021-24013A)		大阪府大阪市東成区東中本2丁目11番
(43)公開日	令和3年2月22日(2021.2.22)		8号
審査請求日	令和4年7月5日(2022.7.5)	(74)代理人	100145403
			弁理士 山尾 憲人
		(74)代理人	100138874
			弁理士 大塚 雅晴
		(72)発明者	高嶋 洋輔
			大阪府大阪市東成区東中本2丁目11番
			8号 オルファ株式会社内
		審査官	須中 栄治

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 替刃ケース

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

替刃を収容する替刃ケースであって、
四角形状の天面と、前記天面のそれぞれの端辺より延びる4つの側壁と、前記4つの側壁の端辺により画定される四角形状の開口部と、を有するキャップと、
四角形状の底面と、前記底面のそれぞれの端辺より延びる4つの側壁と、前記4つの側壁と前記底面とにより画定される替刃収容空間と、を有するケース本体と、
前記ケース本体の1つの前記側壁に一体的に形成されたクリップと、を備え、
前記ケース本体における前記底面とは反対側の端部には、前記キャップの前記開口部に挿入されて前記キャップにより前記ケース本体の前記替刃収容空間を閉鎖可能とする挿入部が設けられ、
前記キャップは、一定の第1幅寸法と、一定の奥行き寸法とを有し、
前記ケース本体は、前記キャップの前記第1幅寸法よりも小さい第2幅寸法と、前記キャップの前記奥行き寸法と同じ一定の奥行き寸法とを有し、
前記第2幅寸法と前記クリップの厚み寸法との合計寸法が前記第1幅寸法と同じであり、
前記クリップの幅寸法は前記キャップの前記奥行き寸法と同じであり、
前記ケース本体の前記挿入部に前記キャップを挿入した状態において、前記キャップの1つの前記側壁の外面と、前記クリップの外面とが面一である、替刃ケース。

【請求項2】

前記キャップの1つの前記側壁に第1係止部が設けられ、前記ケース本体の1つの前記

側壁に、前記第 1 係止部と解除可能に係合する第 2 係止部が設けられ、

前記第 1 係止部と前記第 2 係止部とが係合することにより、前記キャップと前記ケース本体とが連結固定される、請求項 1 に記載の替刃ケース。

【請求項 3】

前記ケース本体において、前記第 2 係止部が設けられている前記側壁は、前記クリップが形成された前記側壁と対向する側壁である、請求項 2 に記載の替刃ケース。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、複数の替刃を収容する替刃ケースに関する。

10

【背景技術】

【0002】

古くなった刃を新しい刃に交換して使用できるナイフ類が従来から知られており、大工等の職人や、家庭の日曜大工においても、そのようなナイフ類が使用される。交換用の替刃は、複数纏めて替刃ケースに収容されることが一般的である。

例えば、大工等の職人は、刃を交換して使用するタイプのナイフを携帯して作業を行う場合、複数の替刃を収容する替刃ケースも一緒に携行して作業を行うことがある。その場合、替刃ケースは、他の工具類と一緒に、比較的大きなサイズの腰袋等に入れられる。そうすると、歩いたり作業をしている間に、替刃ケースが腰袋の奥の方に入り込んで、必要な時に見つけ出すのに手間取ることがある。

20

(先行技術文献)

【0003】

釣りに使用する「釣餌を収容するエサ袋」等にクリップが付いているものは従来から存在する。しかし、「替刃ケース」に「クリップ」を設けた従来技術を、本件出願人は知らない。

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

本発明は上記従来技術の課題に鑑みて創案されたものであって、その目的は、袋に入れる等して携行した場合であっても、紛失することや探すのに手間取ることのない替刃ケースを提供することにある。

30

【課題を解決するための手段および効果】

【0005】

本発明の替刃ケースは、替刃を収容する替刃ケースであって、当該替刃ケースの表面との間に対象物（例えば、ベルト、ポケットの壁面、腰袋の周壁、その他）を挟み込むことで、当該替刃ケースを当該対象物に引っ掛けて固定するクリップを備える。

上記構成を備えた本発明の替刃ケースであれば、例えば腰袋の周壁にクリップを引っ掛けておくことで、替刃ケースは常に所定の位置に存在し、歩いたり作業したりするうちに替刃ケースが腰袋の奥に入り込む、ということがなくなる。つまり、替刃ケースの紛失あるいは、探すのに手間取るといったことを防ぐことができる。

40

【0006】

本発明の替刃ケースは、替刃を収容するケース本体と、キャップとを備えていて、以下のように構成されることが好ましい。

すなわち、キャップは、「平坦な天面」と「一定の第 1 幅寸法」と「一定の奥行き寸法」とを有する。一方、ケース本体は、「平坦な底面」と「上記第 1 幅寸法よりも小さい第 2 幅寸法」と「上記と同じ一定の奥行き寸法」と、を有する。

ケース本体とキャップを組み合わせた状態において、上記クリップを含めた替刃ケース全体が、上記「天面」、「底面」、「第 1 幅寸法」、「奥行き寸法」で特定される仮想六面体の内方に実質的に収まっている。

【0007】

50

このように構成された本発明の替刃ケースは、ケースの外形が六面体（上記仮想六面体）に近いものとなる。そのため、個別にパッケージに収容しなくても、店頭での陳列を整然と綺麗に行うことができたり、多数を段ボール詰める場合であっても効率的にスッキリと梱包できる、等の効果が得られる。

【０００８】

本発明の替刃ケースは、替刃を収容するケース本体と、キャップとを備えていて、（キャップではなく）ケース本体に上記クリップが設けられている、ことが好ましい。

このように構成された本発明の替刃ケースによれば、携行時において、替刃を収容したケース本体がクリップから脱落して紛失したり、ケースが不用意に開いて替刃が散乱する等の不都合を未然に防止することができる。

10

【図面の簡単な説明】

【０００９】

【図１】本発明の一実施形態に係る替刃ケースを示す斜視図。

【図２】図１に示した替刃ケースの六面図（背面図は省略）。

【図３】図１に示した替刃ケースの全体形状を説明する説明図１。

【図４】図１に示した替刃ケースの全体形状を説明する説明図２。

【発明を実施するための形態】

【００１０】

本発明の実施形態を、添付の図面を参照して以下に詳細に説明する。図１は、本発明の一実施形態に係る替刃ケース１０を示す斜視図である。替刃ケース１０は、複数の替刃（図示せず）を収容するケース本体１１と、本体１１の上部開口を閉鎖するキャップ１２とを備える。キャップ１２は回動式の係止部１３を備えていて、これを本体１１側に設けた係止突起１４と係合させることで、ケース本体１１とキャップ１２を連結固定することができる（図２参照）。

20

【００１１】

ケース本体１１は、クリップ２０を一体的に備えている。大工職人が作業時に携行する腰袋の壁部、ズボンや衣類のポケット、あるいはベルト等の対象物にクリップ２０を引っ掛けることで、替刃ケース１０を所定位置に固定することができる。

クリップ２０は、自身と替刃ケースの表面との間に上記対象物を挟み込むことで、替刃ケース１０を固定する。したがって、替刃ケース１０は、これを携行する職人等が歩いたり作業したりする間においても、常に所定の位置に存在し、紛失したり、腰袋等の奥に入り込んで探すのに手間取る、といったことを防ぐことができる。

30

【００１２】

替刃ケース１０はクリップ２０を備えることで上記効果を奏し、その場合に、ケース全体の具体的な形状は、特定のものには限定されない。しかし、クリップを含めたケース全体の形状を、以下に説明するような仮想六面体内に収まるように構成することにより、さらに優れた効果が得られる。

【００１３】

< 陳列や収納等に優れた形状 >

図２は、図１に示した替刃ケース１０の六面図を示している（ただし、背面図は、正面図と左右対称につき省略している）。図から分かるように、替刃ケース１０は、クリップ２０を含めた全体形状が、ほぼ六面体形状であると言える。

40

具体的には、

（ア）キャップ１２は、「平坦な天面Ｕ」と、「一定の第１幅寸法 W_1 」と、「一定の奥行き寸法 N 」と、を有している。

（イ）ケース本体１１は、「平坦な底面Ｌ」と、「上記第１幅寸法よりも小さい第２幅寸法 W_2 」と、「上記と同じ一定の奥行き寸法 N 」と、を有している。

ここで、「一定の・・・幅寸法」あるいは「一定の奥行き寸法」という場合、図２から分かるように、キャップ１２、ケース本体１１は、それぞれ表面に細かな凹凸等が存在しており、厳密な意味では「一定」ではないが、実質的には「一定」と呼べる。

50

【 0 0 1 4 】

ケース本体 1 1 およびキャップ 1 2 が、それぞれ上記寸法を有するが故に、両者を組み合わせた状態においては、「クリップ 2 0 を含めた替刃ケース 1 0 全体」が、天面 U、底面 L、第 1 幅寸法 W 1、奥行き寸法 N で特定される仮想の六面体 (H) の内方に収まっている。図 3 は、これを概略的に示している。また、図 4 は、これを正面側から見た図であって、大略的に言うと、「キャップ 1 2 の全幅 W 1」と「ケース本体 1 1 の全幅 W 2」とに差を設けて、この差によって生まれる空間内に、クリップ 2 0 を設けたとすることができる。

なお、図 2 の平面図からも分かるように、クリップ 2 0 の先端部分が極僅かに、第 1 幅寸法 W 1 からはみ出しているが、この程度であれば「実質的に収まっている」と言える。

10

【 0 0 1 5 】

替刃ケース 1 0 の全体が、以上のように仮想六面体に収まる形状であることによって、次のようなメリットが得られる。

すなわち、1 つ 1 つの替刃ケース 1 0 を個別に包装 (パッケージに収容) しなくても、店頭で複数の替刃ケースを、整然と綺麗に陳列することができる。また、多数の替刃ケースを段ボール箱等に詰める場合であっても、個別に包装せずとも、効率的にスッキリと梱包できる。

【 0 0 1 6 】

< ケース本体 1 1 にクリップ 2 0 を設けることによる利点 >

図示した実施形態では、クリップ 2 0 は、(キャップ 1 2 ではなく) ケース本体 1 1 側に設けている。これにより、次のようなメリットが得られる。

20

すなわち、仮にクリップ 2 0 がキャップ 1 2 に設けられていたとして、そのような替刃ケースをズボンのベルトに固定した場合を想定する。この場合、ケース本体 1 1 がキャップ 1 2 から脱落すると、キャップ 1 2 だけがベルト上に残り、ケース本体 1 1 (および収容された替刃) が落下あるいは、紛失することになってしまう。

【 0 0 1 7 】

これに対して、図示した実施形態のように、クリップ 2 0 をケース本体 1 1 側に設けることで、携行時において、替刃を収容したケース本体がクリップから脱落して紛失するか、ケースが不用意に開いて替刃が散乱するといった不都合を、未然に防止することができる。

30

【 0 0 1 8 】

< 他の実施形態 >

(1)

図示した実施形態では、ケース本体 1 1 が有する「第 2 幅寸法 W 2」も実質的には一定であると言える。しかし、図 4 から分かるように、「第 2 幅寸法 W 2」は一定でなくても、例えばケース本体 1 1 の図 4 中右サイドが傾斜していても、替刃ケース全体としては、仮想六面体 (H) の内方に収めることができ、したがって、そのように構成してもよい。

(2)

図示した実施形態では、クリップ 2 0 は、ケース本体 1 1 と一体的に形成されている。しかし、別部材であるクリップをネジ等を用いて固定するようにしてもよい。

40

(3)

図示した実施形態では、替刃ケース 1 0 は、ケース本体 1 1 とキャップ 1 2 を備えて構成されている。しかし、キャップ 1 2 を備えないタイプの替刃ケースに対しても本発明を適用することが可能であり、その場合、必然的にクリップ 2 0 は、ケース本体側に設けられることとなる。

この場合には、ケース本体 1 1 に収容された替刃が、不用意に落下等することが無いように形状等を工夫することが好ましい。

【 符号の説明 】

【 0 0 1 9 】

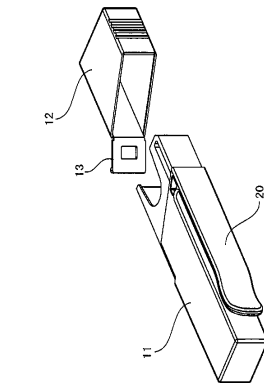
1 0 替刃ケース

50

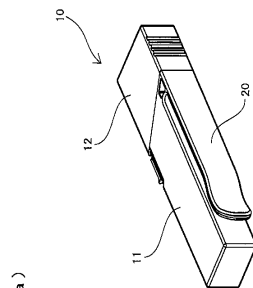
- 1 1 ケース本体
- 1 2 キャップ
- 1 3 係止部
- 1 4 係止突起
- 2 0 クリップ

【図面】

【図 1】

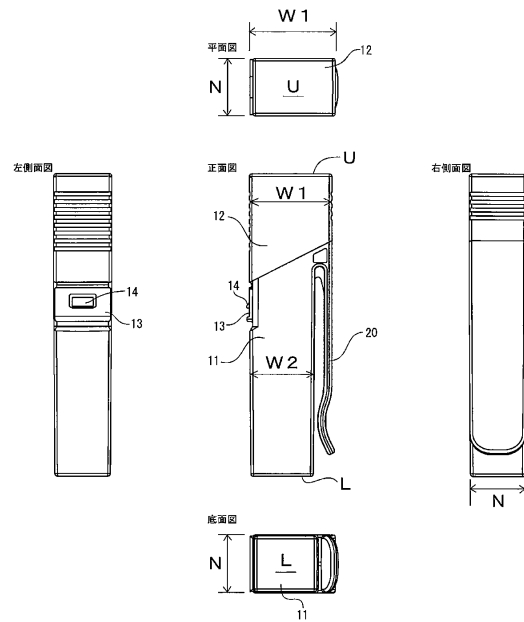


(b)



(a)

【図 2】



10

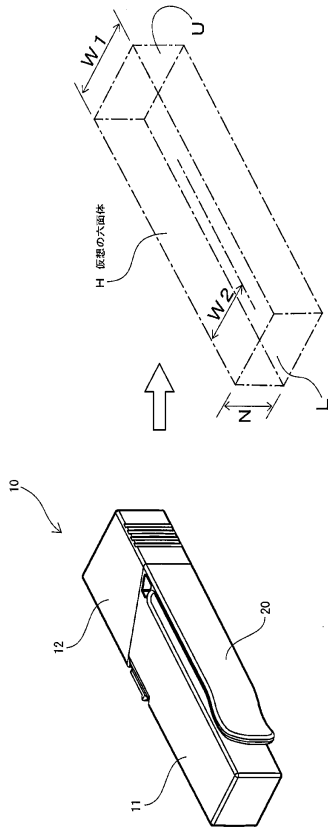
20

30

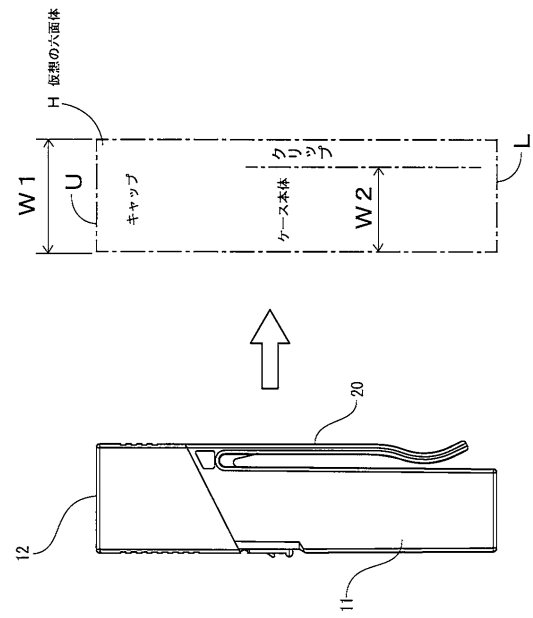
40

50

【図 3】



【図 4】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

- (56)参考文献 特開 2 0 0 1 - 1 6 2 0 6 3 (J P , A)
特開 2 0 0 7 - 1 7 5 9 3 9 (J P , A)
実開昭 5 8 - 0 3 4 6 9 0 (J P , U)
実開平 0 6 - 0 6 2 9 7 7 (J P , U)
特開 2 0 0 2 - 1 7 3 1 8 7 (J P , A)
米国特許第 0 6 0 0 0 5 9 0 (U S , A)
特開 2 0 1 3 - 0 1 8 0 6 4 (J P , A)
登録実用新案第 3 1 1 5 2 1 7 (J P , U)
- (58)調査した分野 (Int.Cl., D B 名)
B 2 5 H 1 / 0 0 - 5 / 0 0
B 6 5 D 8 5 / 0 0
B 2 6 B 1 / 0 8
A 4 5 C 1 1 / 0 0